



好學愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

先輩の教え

GO鶴セミナー

一学年主任 酒匂 恵子

前期が終わり、後期がスタートした。あつという間の半年だったと思う反面、4月を振り返るとその時間の持つ意味に驚かされる。多くの一年生は、日常の学習や行事を経験する中で4月の幼い顔から鶴丸生の顔になりつつある。そこには、部活動や行事を通して壁となり、あるべき姿を見せてくれる先輩の姿があるからだ。「先輩の教え」というのは本当に大きいと改めて感じている。

さて、この後期、一年生にとつては文理選択をしなければならぬ大事な時期となる。9月から10月にかけては、体育祭・文化祭と大きな行事が並び、慌ただしい時期であったが、その合間に「GO鶴セミナー」先輩に学ぶ講演会」を実施した。これは、これから文理選択を行う一年生に、「社会の第一線で働く先輩方のお話を聞くことにより、社会に対する視野を広め、先輩の職業に対する思いや生き方を通して自分の将来を具体的にイメージし、進路決定の一助とする」ことを目的として企画したもので、クラスごとに3名の先輩をお招きし、それぞれの仕事について、また後輩へのメッセージなど話していただいた。年齢も仕事分野も様々な先輩方から、仕事の内容、仕事にかける情熱、高校・大学とどのようなことを考え、また挫折を乗り越えてきたのか、等々のお話は生徒の目の前にある未来への扉を少し開けていただいたと思っている。24名もの先輩方には、たいへんにお忙しい中御協力いただき、また、事前に話の内容など綿密に打ち合わせる事ができなかったにも関わらず、この時期に生徒たちに必要なことを的確にお話しいただいたことに感謝したい。先輩方のお話と質疑応答、感想などをまとめ、一学年全生徒で24名の先輩方のお話を共有し、生徒たちの進路選択に役立てたいと思っている。

GO鶴セミナーでの先輩のお話の中に「健全な常識」という言葉があった。社会の中には様々なルールがあるが、それがすべてをカバーできなくて、そのためには「健全な常識」が肝要である、という内容だったと思うが、これから大人へと成長していく生徒たちにとって、とても大切な言葉だと感じた。「悩む力」(姜尚中)の中に、「働く」ということ

第64回文化祭(10月3・4日)

秋華満天

咲きはこるは文花なり

前期生徒会 文化局局长 22R 杉本 奈緒

「健全な常識」であり、他者からうための手段」であり、他者からの、そして他者へのねぎらいのまなざしが必要なのだ、とある。様々な問題が山積の、この複雑な時代において、「健全な常識」なくしてはなげのまなざしはないと思う。生徒たちには、学校生活を通して日々考へてほしいと願う。

他にも多くの、厳しくも温かい、そして的確な先輩のメッセージは、生徒たちの心に響いており、同じ学舎で過ごしてきた先輩の言葉の重さを感じた。先輩方に感謝するとともに、しっかりと受け止められた生徒たちを頼もしく思うことだった。これからは、先輩の教えを自分の行動に変え、先輩を超えられるように努力を続けて欲しい。百人いれば百通りの生き方がある。自分がどう生きるのか、まずは文理選択から始める一年生一人一人が、しっかりと自分と向き合い、先輩方に開けていただいた未来への扉を、自分の手で大きく開け、一步一步進んで行けるよう、毎日の学校生活を一生懸命に過ごしてほしい。

今年宝山ホールでの幕開けとなった文化祭。体育館改修工事のため、例年とは異なり、文化講演会も同時開催の2日間わたる文化祭となった。1日目は、放送部のステージ発表と筑波大学名誉教授の村上和雄先生による講演が行われた。周囲の環境は例年とは異なったものの、今年も放送部は「かごんま弁」の魅力を存分に伝えてくれた。村上先生による講演では、「遺伝子が目覚めれば人生が変わる」の演題のもと、これからの人生に活かすことのできる、新たな価値観を手に入れることができた。

文化祭2日目。この日は、書道部の迫力のステージでの幕開けとなった。



見事なピアノ演奏とヴァイオリン演奏を披露してくれた特別参加団体の「4EVOLUTION」、ハロウィンをテーマに華麗なダンスを魅せたダンス部、美しい歌声をホール内いっぱいに届けた音楽部、「ツルマルセイの生態」についてまとめ、会場を笑いの渦に巻き込んだ演劇部、これぞ鶴吹！とも言うべき、華やかで楽しく、それでいて心に深くしみ渡る演奏を聴かせた吹奏楽部。そして、各演目の合間に演劇、ヒューマンビートボックスを披露した3つの幕間参加団体。2日目の午前は、まるで1日を過ごしたかのような充足感をもたらしながらもあつという間に過ぎていった。

午後は学校での鑑賞となった。文化系部活動の展示発表は、日頃の活動の成果があらわれた内容で、それぞれに見ごたえのあるものだった。クラスの展示では、今年音や映像を用いた、五感をつかわせる発表が多く、見る人を楽しませる工夫が随所に見られた。文化館では、生徒有志による演奏が行われ、会場は熱気に包まれた。変更点の多かった今年の文化祭に、私は運営側として携わることができた。一つの行事をつくり上げることが、どれほど時間がかかる、難しいことなのか。このような楽しい行事の裏側にある努力や苦心は、経験しなければ知りえないことだった。

この文化祭は、多くの方の協力のもと成功裡に終わった。未熟で頼りない局長を支えてくれた補佐3人、励まし、適切なアドバイスをくださった先輩がたや同級生、準備から本番まで尽力してくださった先生方、文化祭に携わったすべての方々に、心から感謝する。

文化講演会

10月3日(水)、筑波大学名誉教授の村上和雄先生をお招きして、文化講演会が開かれた。文化講演会とは、例年、卒業後30年経った先輩方から在校生への贈り物として実施されているもので、今回は三十三回



生に御尽力いただいた。村上先生は、「遺伝子が目覚めれば人生が変わる」という演題で、自身の研究内容、人生における「笑い」の効用、遺伝子スイッチのオンオフについて、ユーモアを交えながら分かりやすく話してくださいました。生徒からは、「心の持ち方・環境が遺伝子のオンオフに大きく影響を与える」「化学は知的なエンターテインメント」「人と比較するために生まれてきたのではない」など、強く心に残る言葉をたくさんいただいた。

中でも、「何か自分の命を失ってもいいと思えることに出会うことが幸せである」という言葉を聞いて、これが歴史に名を残すほどの研究者の考えかと強い感銘を受けた。なほどの感想が数え切れないほど寄せられた。

学年PTA

10月15日(月)に第1学年、16日(火)に第2学年の学年PTAが開かれた。講演会では前学研開発事業部顧問の高根万里先生が「大学の現状と今後」保護者の心得」というテーマで、センター試験や大学教育の変化、大学卒業後について分かりやすく教えてくださった。先生が挙げて下さった、「進路実現に向けて親のなすべきこと」の中には、学校で常々指導を受けたことや、生徒諸君同士が話し合ったりすることと共通する点が多かった。是非、家庭で確認していただきたい。

全体会終了後は各教室で学級PTAが開かれ、クラスの現状や文理選択、修学旅行について等、様々な話題で話し合いが行われた。

平成24年度後期生徒総会

10月17日(水)、生徒総会が開かれた。今年度は、体育館改修工事によって全校生徒の集会場所がなかったために、各クラスにおいて、特別議案「時間の活かし方」について議論を重ねた。その中で、どのような鶴丸高校を創り、どのような鶴丸生であるべきかということも踏まえて、考えた。

また、次期生徒会長選挙では、28R水口貴香子さんが立候補し、一人ひとりが「FOR O.T.H.E.R.S」の精神を持って行動することが大事と、全員で創造する生徒会活動の意義を訴え、翌日の投票で信任された。生徒全員による活発な活動の実現を期待したい。

11月の行事予定

11月		かごしまの教育県民週間 教員相互授業参観週間	定期 教育 相談
日	内容		
1 木	ロードレース大会前健康診断		
2 金	2年進路講演会		
3 土	文化の日 悠学講座⑥ 3年進研マーク		
4 日	3年進研マーク		
5 月	学年朝会		
6 火	スクールカウンセリング		
7 水			
8 木	3年実力考査(1日目)		
9 金	3年実力考査(2日目) ロードレース大会		
10 土			
11 日	第2回英検二次試験		
12 月	全校朝会 学校安全の日 集団読書(1,2年)		
13 火	スクールカウンセリング		
14 水	1年進路講演会(予定)		
15 木			
16 金	中掃除		
17 土	悠学講座⑦		
18 日			
19 月	学年朝会 卒業考査・中間考査時間割発表		
20 火	金曜の授業 スクールカウンセリング		
21 水			
22 木			
23 金	勤労感謝の日		
24 土			
25 日			
26 月	全校朝会		
27 火			
28 水			
29 木	卒業考査(1日目) 進路検討会(～12/4)		
30 金	卒業考査(2日目) 中間考査(1日目)		